

大阪体育大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム 自己点検・評価

評価日：令和6年6月26日

会議名称：大阪体育大学自己点検・評価委員会

開催場所：大阪体育大学中会議室

目的：令和5年度の数理・DS・AI教育プログラムの自己点検・評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」の審査項目の観点による評価

S：計画・目標以上の成果(又は効果)を出すことができた
 A：計画・目標どおりの成果(又は効果)を出すことができた
 B：計画・目標どおりではないが、ある程度成果(又は効果)を出すことができた
 C：計画・目標とした成果(又は効果)を出せなかった
 -：現時点では評価できない

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取り組み等	評価結果
プログラムの履修・修得状況	本プログラムは2022(令和4)年度から開始しており、本プログラムを構成する履修科目は、各学部の必修科目及び教員免許状取得のために必修である科目を含んだプログラムにしているため、今後は全学的な履修率は高くなる見込みである。また、履修・修得状況の確認については、教学部が教学システムにより履修登録の漏れがないことや、履修学生の修得状況を把握できる体制となっている。	A
学修成果	情報通信技術を活用する社会における素養として、数理・データサイエンス・AIに関連した基本的な知識・技能・態度を取得できたかの達成度は、科目成績及び履修学生を対象とした授業評価アンケートを手がかりに、学修成果の分析と確認を行える体制となっている。	A
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本プログラムを構成する履修科目では、履修学生を対象とした授業評価アンケートを実施し、教材・教育内容の評価や授業内容の理解度等を把握し、その結果を基に授業改善に繋げる体制となっている。	A
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本プログラムは2022(令和4)年度から開始しており、現時点では後輩等他の者への推奨の取り組みを行っていないが、2023(令和5)年度からアンケート等で他学生への推奨度について確認し、アンケート結果を後輩等他の学生が閲覧できるように検討していく。	-
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムの構成する履修科目は、各学部の必修科目及び教員免許状取得のために必修である科目を含んだプログラムにしている。数理・データサイエンス・AI教育の重要性が高まっており、今後も必修科目を含んだプログラムとしていく方針を継続していく計画である。	A
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは2022(令和4)年度から開始しており、本プログラムを構成する科目を履修し、単位を修得して卒業した学生はいない。今後、卒業生の進路先や採用状況等を把握していく仕組みを検討していく予定である。	-
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	産業界等の有識者を含めた外部評価委員会により、本学の取り組みや自己点検・評価に関する評価を年1回実施しており、本プログラムに関して意見をいただく予定である。今後、外部の視点からも教育プログラムの内容や手法等への改善の参考にする。	-
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本プログラムを構成する履修科目では、データを活用するための基礎技術などの能力や数理・データサイエンス・AIに関する知識などを主体的に身に付けることを目標としている。また、これらのことを学ぶことが、自身の社会生活と密接に繋がることに気付くことで、学ぶ楽しさや意義を得ることを目指している。	A
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	授業評価アンケートの回答結果を参考にしながら、授業の内容と水準を維持・向上し、学生がより分かりやすい授業となるように検討をしていく。また、年度ごとに本教育プログラムに関する点検を実施し、授業内容の水準の維持と向上に繋げていく。	A

大阪体育大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム 自己点検・評価

評価日：令和6年6月26日

会議名称：大阪体育大学自己点検・評価委員会

開催場所：大阪体育大学中会議室

目的：令和5年度の数理・DS・AI教育プログラムの自己点検・評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」の審査項目の観点による評価

S：計画・目標以上の成果(又は効果)を出すことができた
 A：計画・目標どおりの成果(又は効果)を出すことができた
 B：計画・目標どおりではないが、ある程度成果(又は効果)を出すことができた
 C：計画・目標とした成果(又は効果)を出せなかった
 -：現時点では評価できない

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取り組み等	評価結果
プログラムの履修・修得状況	本プログラムは2022(令和4)年度から開始しており、本プログラムを構成する履修科目は、各学部の必修科目及び教員免許状取得のために必修である科目を含んだプログラムにしているため、今後は全学的な履修率は高くなる見込みである。また、履修・修得状況の確認については、教学部が教学システムにより履修登録の漏れがないことや、履修学生の修得状況を把握できる体制となっている。	A
学修成果	情報通信技術を活用する社会における素養として、数理・データサイエンス・AIに関連した基本的な知識・技能・態度を取得できたかの達成度は、科目成績及び履修学生を対象とした授業評価アンケートを手がかりに、学修成果の分析と確認を行える体制となっている。	A
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本プログラムを構成する履修科目では、履修学生を対象とした授業評価アンケートを実施し、教材・教育内容の評価や授業内容の理解度等を把握し、その結果を基に授業改善に繋げる体制となっている。	A
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本プログラムは2022(令和4)年度から開始しており、現時点では後輩等他の者への推奨の取り組みを行っていないが、今後、アンケート等で他学生への推奨度について確認し、アンケート結果を後輩等他の学生が閲覧できるように検討していく。	-
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムの構成する履修科目は、各学部の必修科目及び教員免許状取得のために必修である科目を含んだプログラムにしている。数理・データサイエンス・AI教育の重要性が高まっており、今後も必修科目を含んだプログラムとしていく方針を継続していく計画である。	A
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは2022(令和4)年度から開始しており、本プログラムを構成する科目を履修し、単位を修得して卒業した学生はいない。今後、卒業生の進路先や採用状況等を把握していく仕組みを検討していく予定である。	-
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	産業界等の有識者を含めた外部評価委員会により、本学の取り組みや自己点検・評価に関する評価を年1回実施しており、本プログラムに関して意見をいただく予定である。今後、外部の視点からも教育プログラムの内容や手法等への改善の参考にする。	-
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本プログラムを構成する履修科目では、データを活用するための基礎技術などの能力や数理・データサイエンス・AIに関する知識などを主体的に身に付けることを目標としている。また、これらのことを学ぶことが、自身の社会生活と密接に繋がることに気付くことで、学ぶ楽しさや意義を得ることを目指している。	A
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	授業評価アンケートの回答結果を参考にしながら、授業の内容と水準を維持・向上し、学生がより分かりやすい授業となるように検討をしていく。また、年度ごとに本教育プログラムに関する点検を実施し、授業内容の水準の維持と向上に繋げていく。	A